

近世
中国朝鮮
交渉史の
研究

松浦章著

思文閣出版

序

明清時代における中国と朝鮮国との関係を考える場合の基本は、『大明会典』『大清会典』に見える朝貢規定であろう。万曆『大明会典』では国別に關係する事項が列記される形式で記載されており、康熙・雍正『大清会典』においてもその形式が継承されている。

ところが乾隆『大清会典』は記述形式が一変し、新しく編纂された乾隆『大清会典事例』に朝貢關係の記述が詳細に収録され、勅封、貢期、貢道、貢物、朝儀、賜予、迎送、市易、賙卹、拯救、従人、官生肄業、館舍、象訳の一四項目に細分化された。同じく一四項目に分けられているのが嘉慶『大清会典事例』であり、その方針がより明確化されることになった。嘉慶『大清会典事例』においては卷三九二より卷四〇一までの一〇巻が礼部、朝貢であるが、それも右と同じ一四項目に細分化されている。朝貢に關するすべての事項がこれで包括されると考えられた。この方針は光緒『大清会典事例』においても踏襲されている。

これらの記述のうち、具体的に両国の人と人との交流という視点から見ると、いつ接触が行われたのかが最初に注目される点であろう。

中国と朝鮮国との關係については、万曆『大明会典』卷一〇五、朝鮮国の条に、

永樂初、賜印誥、自後每歲聖節・正旦^{嘉靖十年、外夷朝}、皇太子千秋節、皆遣使奉表朝賀貢方物。

とあり、朝鮮国は、中華皇帝の誕生日、元旦、皇太子の誕生日と一年に三度の使節を派遣する規定であった。このうち、嘉靖十年（一五三二）以降は元旦の使節は冬至節に変更されるが、朝鮮国は中国に対して一年に三度の使節派遣が基本であった。

それが清代になると、嘉慶『大清会典』卷三一、礼部、凡入貢各定期其期の条によれば朝鮮国の場合、一年に四回の朝貢が認められ、琉球や越南の二年一貢に比較しても特別扱いであったことがわかる。

明清時代においては、朝鮮国の中国への定期的な使節派遣が基本的な交流の形式であった。この定期的な使節の派遣は万曆『大明会典』卷一〇五、礼部六三、朝鮮国の条に、

貢道由鴨綠江、歴遼陽・廣寧、入山海關、達京師。又中国漂流人口至本國者、量給衣量送回。と規定され、また清代においても嘉慶『大清会典』卷三一に、

朝鮮貢道、由鳳凰城至盛京入山海關。

とあるように、朝鮮半島から鴨綠江を渡り、中国の東北地域を経由し山海関を経て北京にいたる路程とされていた。

このような明代、清代の中国と朝鮮王朝との交渉について述べたのが本書である。

近年は中国と朝鮮国との交渉に関する歴史研究にとって重要な朝鮮使節の『燕行録』に関する膨大な記録が林基中編『燕行録全集』（全一〇〇冊、東國大学校出版部、二〇〇一年十月／全五〇冊、東國大学校出版部、二〇〇八年三月）として刊行され、またベトナム使節の北京への上京の記録が上海の復旦大学文史研究院とベトナムの漢喃研究院により共同編集され『越南漢文燕行文献集成』（中国・復旦大学文史研究院、越南・漢喃研究院合編全二五冊、二〇一〇年五月）として刊行され、ベトナムの陳朝時代から後黎朝、西山朝、阮朝にかけての八〇種に近い記録の存在が明らかとなっているように、中国と朝鮮のみならず、近世の東アジア世界の交渉に関する研究環境は大変良くなってきた。本書がこれらの研究をさらに発展させる礎となれば幸甚である。

二〇一三年五月

松浦 章

近世中国朝鮮交渉史の研究◆目次

序

序 章

- 一 緒 言…………… 3
- 二 朝鮮王国の北京への使節派遣…………… 4
- 三 本書の課題…………… 10

第一部 朝鮮使節の北京への道程——赴京使による交渉(一)

第一章 袁崇煥と朝鮮使節

- 一 緒 言…………… 19
- 二 朝鮮朝貢路の変更…………… 20
- 三 朝鮮使節の見た袁崇煥…………… 25
- 四 小 結…………… 28

19

3

第二章 朝鮮使節の記録に見る北京の会同館……………31

一 緒言……………31

二 明代の会同館……………32

三 清代の会同館……………37

四 会同館における諸行事……………47

五 小結……………49

補論 朝鮮使節が宿泊した北京の智化寺……………53

一 緒言……………53

二 智化寺と王振……………53

三 智化寺と朝鮮使節……………54

四 小結……………56

第三章 朝鮮使節の客死……………58

一 緒言……………58

二 朝鮮使節の北京への行程……………58

三 朝鮮使節の客死と清朝の対応……………63

四 小結……………69

第二部 朝鮮情報から見る中国——赴京使による交渉(二)

第一章 明朝末期における朝鮮使節の見た北京……………73

一 緒言……………73

二 明末における朝鮮使節の朝貢路……………74

三 朝鮮使節の見た明朝末期の北京……………83

四 朝鮮使節の見た後金・清の動向……………89

五 小結……………91

第二章 清代朝鮮使節の台湾情報・林爽文の乱……………99

一 緒言……………99

二 清代台湾の林爽文の乱……………99

三 清代朝鮮使節の見た林爽文の乱情報……………105

四 小結……………110

第三章 朝鮮国に伝えられた康熙帝の訃報……………114

一 緒言……………114

二 康熙帝の遺詔と雍正帝の登極詔……………115

三 清朝鮮貢国に伝わった康熙帝の訃報……………120

四 日本に舶載された康熙帝の遺詔と雍正帝の登極詔……………125

五 小 結……………134

第四章 乾隆太上皇の死と朝鮮使節……………137

一 緒 言……………137

二 嘉慶四年の朝鮮使節……………138

三 乾隆太上皇の遺詔……………143

四 小 結……………151

第三部 中国漂着朝鮮船と朝鮮漂着中国船——海路による交渉(一)

第一章 明代中国に漂着した朝鮮船……………155

一 緒 言……………155

二 明代における朝鮮船の中国漂着……………156

三 万曆三十九年台州漂着朝鮮漁船について……………164

四 小 結……………169

第二章 中国船の朝鮮漂着——顯宗八年の明船漂着と「漂人問答」を中心に……………173

一 緒 言……………173

二 朝鮮王朝時代における漂着中国船の事例……………174

三 清入関後の明船の漂着をめぐって……………186

四 「漂人問答」について……………199

五 小 結……………205

〈影印〉漂人問答 附 思漢吟咏……………210

第三章 清末上海沙船の朝鮮漂着に関する一史料……………234

一 緒 言……………234

二 『各司膳録』所載の漂着中国帆船……………234

三 漂着船の記録……………236

四 小 結……………240

第四部 黄海の交渉史——海路による交渉(二)

第一章 天啓期における毛文龍占拠の皮島……………245

一 緒 言……………245

二 毛文龍の皮島占拠……………246

三 毛文龍支配下の皮島……………251

四 小 結……………258

第二章 康熙盛京海運と朝鮮賑濟……………	261
一 緒言……………	261
二 康熙盛景海運……………	262
三 清朝の朝鮮賑濟……………	268
四 小 結……………	275
第三章 清末山東半島と朝鮮仁川との帆船航運……………	278
一 緒 言……………	278
二 清代山東沿海の航運……………	278
三 光緒十年朝鮮仁川入港の中国帆船と山東烟台との航運……………	280
四 小 結……………	291
終 章 近世中国と朝鮮国との交渉史の意義……………	293

初出一覽
跋
中文要旨
索引

近世中国朝鮮交渉史の研究

序章

一 緒言

中国と朝鮮国の交渉の歴史は、朝鮮王朝の始祖李成桂が、明朝の洪武帝から冊封を受けた時から始まる。明の万暦『大明会典』巻一〇五、朝貢一、朝鮮国の条に次のようにある。

〔洪武〕二十五年、李成桂代王氏、請更其國號、詔更號朝鮮、永樂初賜印誥、自後每歲聖節・正旦、嘉靖十年、外夷朝正旦、俱改冬至。皇太子千秋節、皆遣使奉來朝賀、貢方物、其餘慶慰謝恩無常期。若朝廷有大事、則遣使頒詔於其國、國王請封、亦遣使行禮、其歲時朝貢視諸國最爲恭順。^①

高麗国王の王氏に替わり建国した李成桂は、洪武二十五年（一三九二）に明朝の洪武帝に国号を改めることを要請し、洪武帝から朝鮮の国号を与えられた。その後、永樂初期に朝鮮国王としての印綬と誥命を受けて、明朝の朝貢国となった。その朝貢は、毎年の皇帝の誕生日、正月元旦、そして皇太子の千秋節を祝賀するための使節を派遣することになる。正旦節は嘉靖十年（一五三二）に冬至節と改められたが、使節派遣が継続され、中国にとって朝鮮国は友好な隣国であった。

朝鮮国の使節は、『大明会典』巻一〇五、礼都六三、朝鮮国の条に、「貢道由鴨綠江、歴遼陽・廣寧、入山海關、達京師」とあるように、朝鮮国の都から陸路により鴨綠江を越え、渤海沿海の地である遼陽や広寧を経て山海関

にいたり、中国の都に達したのであった。

清代になると嘉慶『大清会典』卷三二、礼部、凡入貢各定期の条には、

朝鮮毎年四貢、於歲杪合進。琉球間歳一貢、越南二年一貢。四年遣使來朝一次、合兩貢並進。

とあるように、朝鮮国の場合、一年に四回の朝貢が認められ、琉球や越南の二年一貢に比較しても特別扱いであったことがわかる。

このような中国と朝鮮国との交渉の歴史はどのようであったかを課題として本書で述べたい。

二 朝鮮王国の北京への使節派遣

清朝中国と朝貢関係にあった朝鮮王国は、王都から北京へ使節を派遣した。清朝と朝鮮国との朝貢関係について先駆的な業績をあげたのは全海宗氏や張存武氏である。とりわけ台湾中央研究院近代史研究所の張氏は、清国と朝鮮国との朝貢関係を朝貢貿易の視点から分析し、朝鮮使節の清国への派遣によって行われた貿易の形態を「使行貿易」として捉え詳細に検討している。さらに国境付近で行われた貿易に関しては「辺市」として扱い講究した。

朝鮮使節団の構成に関して、清朝の規定である『大清会典』によれば、

朝鮮貢使、正副使各一員、以其國大臣或同姓親貴稱君者、充書狀官一員、大通官三員、護貢官二十四員、從人無定額、賞額凡三十名。

とあるように、朝鮮国の朝貢使節は正使、副使、書狀官が各一名、大通官が三名、護貢官が二四名と合計三〇名が規定の人員で、從者に関しては定数がないとされていた。

これに対して、朝鮮国側の事情はどのようであったろうか。朝鮮国王純祖の八年（一八〇八）頃に完成したと

いわれる『万機要覽』財用編五、燕使に、

仁祖乙酉、因勅諭、并冬至・聖節・正朝及歲弊、爲一行、毎年六月都政差出。而都政雖差退、必於六月内差出。

とある。仁祖二十三年（一六四五）に清朝皇帝の勅諭により、朝鮮王朝では冬節・聖節・正朝の使節、翌年の派遣に備え前年の六月のうちに員数・人選を決定していた。

北京に派遣される人員は次の人々であった。

正使一員 副使一員 書狀官一員 堂上三員 上通事二員 質問通事一員 次上通事一員 歲弊領去官三員
歲弊米領去官二員 方物領去官七員 清學新通兒一員 偶語別差員二員 醫員一員 寫字員一員 畫員一員
日官一員 軍官一員 彎上軍官二人 御醫員一員

これらが主要な人員で三三名となり、定例の朝貢の使節団の定員であった。他に特別な場合には別請訳官が一、二名や別遣訳官が加わった。

この他に、これらの定員を補佐する業務の人々がいた。それは、「驛卒 軍卒 奴子 驅人」などであった。驛卒は、

咨文馬頭一名、方物馬頭二名、歲弊馬頭二名。正使書者馬頭・左牽籠馬頭・乾糧馬頭・日傘奉持各一名、引路二名、轎子扶囑四名、厨子二名、書狀官書者馬頭・左牽籠馬頭各一名、首堂上馬頭一名、以上兩西驛卒帶去。

とあり、驛卒だけで二二名にのほり、

軍卒、安州・義州各一名。奴子、正使・副使各二名、書狀官一名、堂上譯官・上通事・掌務官・寫字官各一名。軍官・中堂上各一名、御醫・別啓請・別遣各一名。驅人、驛馬・卜刷・刷馬・自騎馬・私持馬、皆有驛

釜山	131
武清	90
武宗実録	160
普陀山	126, 127
福建(省)	25, 67, 103, 134, 164, 198, 267, 268, 275, 279
福建人	99, 100
福建籍	288
筆	48
莆田県	106
撫寧県	64
分類紀事大綱	132
へ	
米穀	261, 268~271
平壤	58, 77, 79, 81
平島	23, 82, 247, 253~255→皮島も見よ
北京	10, 19, 20, 27, 33, 34, 36, 40, 42, 48, 56, 58, 62, 64, 65, 67, 74~76, 79, 85, 89, 90, 108, 109, 137, 139, 142, 159, 168, 193
別館	38, 49
別遣訳官	5
別請訳官	5
ベトナム	ii, 10
ベトナム使節	10
辺市	4, 8
ほ	
鳳凰城	59, 250
崩御	132, 133
奉使安南水程日記	33
豊潤駅	82
豊潤県	62, 65~69
包世臣	175
奉天	269
蓬萊	279
朴彝叙	76
北館	34, 35, 40, 49
朴趾源	44
朴思浩	45
戊午燕行録	137, 139, 145, 152
舗商	48
渤海	11, 25, 73, 81, 89, 91

北極寺	40
ホントイジ	91
ま	
毎日紀	131
満洲族	11, 19, 20, 22, 27, 73, 74, 76, 88, 91, 99, 245, 257, 296
満斗島	235, 236
満文老檔	90, 250
み	
明史	31, 74, 83, 84
明史紀事本末	86
明実録	156
明清史料	163
む	
夢経堂日史編	46
め	
明宗実録	162
も	
蒙古	56
毛光潤	67
蒙古館	45
毛大將軍海上情形	245, 246, 251, 252, 254, 258, 259
毛文龍	21, 22, 26, 245~251, 253, 254, 256~259, 296
モンゴル族	54
問情別單	240, 295
ゆ	
楡関(站)	64, 69
兪漢謨	108, 110
兪彦鎬	44
よ	
雍正帝	118, 119, 124, 125, 127, 129, 130, 133, 134
妖賊	88
陽村先生文集	33

陽波朝天日録	37
ら	
賚咨官	105, 106, 110
萊州	247, 255, 259, 279
羅宜素	89
り	
李墳	200~202
李衛	67
李亦賢	127
李漢隊	168
李基憲	45
李宜顯	40
李屹	27, 28
陸国相	87
李鴻章	240, 280, 291
李坤	44
李在協	108, 110
李自成	88, 187
李相勛	193
李昌謀	126
李之謙	192
李世華	273
李成桂	3, 19, 73
李選	197
李祖源	139, 148
李大	164, 168
李大挺	169
李鎮復	105, 106, 110
俚島	281~283
李德懋	41
李芬	74
李萬選	120
柳赫然	190
柳潤	76
劉卻	100
琉球	4, 48, 67, 69, 124
琉球館記	45
琉球使節	45
劉恒	54
龍川	251
流賊	88

柳命天	38, 55
遼河	264
遼東(半島)	19, 20, 22~25, 28, 61, 73, 76, 81, 91, 245, 246, 253, 254, 257~259
稜島→皮島	
遼東郡司	164
遼東湾	74, 75
遼寧省	58, 240
遼陽	3, 74, 76
旅順口	24, 263
林寅觀	195~197, 202, 203
林幹洙	46
林爽文	99~101, 103~107, 110
麟坪大君	38
る・れ	
琉璃廠	48
礼部	6, 41~43, 48, 67, 105, 116, 146, 148, 149
ろ	
老稼斎燕行日記	39
鹿仔港	109
鹿耳門	101
鹿島	254
禄米胡同	54, 57
ロシア使節	38, 40~43, 46, 49, 56
盧錠	198
呂東植	63, 64, 69
呂裕吉	74
わ	
倭館	131
倭寇	155

端宗実録	157
ち	
地安門	43
智化寺	11, 38, 53, 55~57
竹塹	102
智順王	90
茶	48
中江	261, 269~273
冲齋先生文集	35
中山王朝	114
中山世請	123
中宗実録	160, 161
朝京日録	81, 87, 89~91
張継善	254
趙憲	36
朝貢	37, 43, 48, 173, 188, 191
張行	270
張洪實	86
長山島	82
潮州籍	288
長城	27
澄清坊	36, 42
鳥船	204
朝鮮王朝実録	12, 156, 183, 200, 205
朝鮮館	44
朝鮮漁船	156
朝鮮使節	19, 33, 35, 38~42, 44~48
朝鮮船	12
朝鮮人参	7, 86, 87
朝鮮漁人	165, 167, 169, 170
張廷路	40
朝天航海録	83, 86
朝天日記	36
朝天録	35
趙復陽	190
張鵬雲	22, 254
丁有伝	257
朝陽門	38, 39, 55, 57, 78, 82
長蘆塩法志	266, 270
陳慰使	89
陳賀兼謝恩使	64
鎮江(堡)	246, 248, 253, 258

青島	280
沈廷芳	54
陳得	203
つ	
通事	87
通州	36, 62, 65, 82
通信使	9
通文館志	10, 47, 48, 58, 59, 63, 76, 174, 175, 183, 186, 293
対馬	131, 133
敦賀丸	286
て	
鄭経	12, 196, 197
鄭経世	22, 74, 81
鄭氏	205
程峻	102
鄭太和	37, 188
鄭致和	189, 190, 192~195
鄭斗原	89
丁有傳	258
鄭遼	76
定遼衛	74
鉄山	77
鉄山嘴	21, 76
天啓帝	83~85
天順帝	54
天津	255, 256, 264, 265, 267, 268, 270, 271, 274
天津衛	263
天津条約	291
天地会	100, 103, 104
伝訃使	121, 134
田文鏡	278
と	
騰黄刊刻	116, 134
東館	36
薫直叶	127
登極詔	127, 129, 130, 134
堂下官	8
東江	247

東江始末	21
東江米巷	46
冬至	108, 110
冬至使	45, 74, 80, 89, 107, 109, 120, 139
東史約	247
登州	20, 23, 28, 77, 79, 85, 247, 255, 256, 259, 263, 264, 274, 279
堂上官	8
冬節	5
陶岱	263~266, 271~274
同文彙考	10, 99, 105, 106, 108, 174, 175, 183, 186, 240, 268, 273, 274, 294
同文彙考補編	120
徳川幕府	114
徳川吉宗	115
徳州	78
土木の変	54
豆満江(図們江)	13, 294
豊臣秀吉	169, 170, 268
な	
内務府	40
長崎	128, 133, 134, 199, 126
長崎実録大成	125
那彦成	64
那覇	69
南館	34, 35, 37, 40, 41, 44~46, 49
南宮	54
南京	32~34, 198
南京船	126, 127, 130, 131
南小館	44
南汎口	82, 83
南明	134, 187
に	
日本	187, 291
任承恩	101, 102
ぬ	
ヌルハチ	245, 250, 252, 254
ね	
寧遠	20, 21, 23, 27, 80, 89

寧遠衛・寧遠城	24, 27
寧古塔	205
寧波	126, 159
寧波船	240
は	
貝和諾	269
馬仁軒	237, 239
八包	7
林羅山	251, 252
馬有才	256~258
万機要覽	5, 6
ハングル書写本	139, 143, 145, 152
ハングル文字	137
潘紹文	127
ひ	
東シナ海	11, 69
肥後丸	286
皮島(椴島・平島・稜島)	21, 22, 79, 82, 245, 247~249, 251, 253, 296
備辺司騰録	234, 240, 256, 258, 295
漂海録	155, 169
漂漢問情別単	295
馮毅	117
漂人問答	12, 199, 200, 202, 204, 205, 210
漂人問答別単	295
漂着	12, 155, 159, 163, 173, 175, 176, 184, 185, 234, 295
苗珍実	186
廟島	79
表文	148
漂流	11, 173, 174
漂流人	192
閔聖徽	63
閔鎮遠	38, 55, 56
ふ	
赴燕日記	45
福康安	101, 107, 109
副師	4
福州	69, 118
赴京使	10, 11, 76, 293, 294

山東籍 291
 山東半島 19, 20, 23, 28, 76, 81, 278
 三藩の乱 116

し

四夷館 46
 市易 i, 48
 史記 278
 紫禁城 56
 時憲曆 105, 110
 事大 173, 191
 芝罘 286, 288, 291
 芝罘港穀物商況 284
 芝罘ノ商業習慣及例規 287
 咨文 148
 耳目官 67
 謝恩使 8, 84, 108, 110
 謝恩副使 63
 上海 126, 236, 238~241
 朱一貴 100
 關卹 i, 11
 従人 i, 105
 鈕正源 237, 239
 鈕正豊 237, 239
 肅宗 12, 261, 268
 肅宗実録 197, 272, 273
 従者 -4
 首訳官 148
 ジュンガル 116
 純祖実録 63
 順治帝 134
 順天府 33, 144
 順天府志 39, 42, 43, 46, 53, 57
 彰化 104
 尚可喜 89, 90
 彰化県 101, 103
 彰化県誌 102, 104
 拯救 i, 12
 蔣源茂 238, 240, 241
 小甲 86
 常山島 254
 蕭氏 85
 漳州 103, 106, 197, 198

漳州人 100
 常青 103, 107
 承政院日記 192, 200, 204, 205, 273
 小通事 105
 上通事 86
 上馬宴 47
 邵武郡 25
 邵武府志 25
 徐慶淳 46
 徐繼仁 86
 女姑口 280
 書状官 4, 45, 64, 74, 84, 108, 137, 139, 148, 152
 書籍 48
 徐長輔 45
 徐能輔 64
 徐文重 8, 38
 徐有聞 137~139, 148, 152
 諸羅県 101, 103, 104
 宸垣識略 46
 進賀使 27, 63
 新館 42, 49
 清軍 90, 91
 清史稿 54, 100
 清実録 122, 128, 130
 仁川 13, 280, 283, 284, 286, 291, 296
 仁祖 84, 86, 88, 89, 91
 仁祖実録 21, 63, 76, 79, 80
 神宗実録 162, 163
 心田稿 45
 信牌方記録 125
 沈茗園 127
 瀋陽 7, 76, 148, 257
 瀋陽城 75

す

崇禎実録 21
 崇禎帝 85, 89
 崇文門 78
 図画 48
 墨 48

せ

西館 36, 41, 43, 44
 旌義 176, 177, 179~182
 旌義県 186, 198
 盛京 61, 262, 263, 265, 267~270
 盛京通志 264, 267
 正朔 5
 西山朝 ii, 10
 正使 4
 成至善 191
 青州 78, 279
 聖節 5
 青莊館 41
 成宗実録 158, 159, 169
 正祖実録 105, 107, 108, 138, 147, 151
 聖祖実録 115, 262, 264~266, 269, 273~275
 聖祖仁皇帝御製海神廟碑文 267
 聖祖仁皇帝御製文集第二集 267, 274, 275
 正旦節 3
 正統帝 53, 54
 生番 109
 正陽門 36, 43
 石城島 79, 82, 254
 石多山 79~81, 83
 石島 282
 世宗実録 116, 118, 124, 156~158, 161, 162
 石希瑛 205
 浙江(省) 164, 168, 198, 268, 286
 浙江籍 288
 瞻雲坊 43
 遷界令 198, 278
 千頃堂書目 164
 宣沙浦 79
 泉州人 100
 千秋節 3
 宣川 77
 宣宗実録 64, 156, 162
 宣武門 43
 暹羅国 148
 暹羅使節 149
 全羅道 185, 268

そ

漕運全書 265, 266, 271
 桑額 264
 宋克訊 80
 宗家 131~133
 創興盛京海運記 267, 275
 曾勝 193, 202, 203
 奏請使 86
 増補文献備考 261
 ソウル→漢城
 続雜録 23, 26, 27, 248~250
 続修台湾県誌 103
 即墨県志 279
 蘇州 126, 134, 186
 祖承訓 28
 祖大壽 28
 祖大樂 91
 孫承宗 89

た

大運河 159
 大沽 264, 274
 大慈恩寺 34
 台州 168
 泰昌皇帝 83
 太上皇帝 147
 大清会典 i, ii, 4
 大清会典事例 i, 11, 12, 37, 43, 48, 63, 261
 太宗 12
 太宗実録 12, 27, 33
 大通官 4, 56
 大同 54
 大同江 24
 大東地誌 59
 大明会典 i, 3, 11, 19, 32~34, 47, 74
 大里杙 104
 台湾 100, 101, 103, 104, 107, 108, 110, 205, 246
 湛軒燕行雜記 44
 湛軒書 48
 淡水 102, 104
 淡水庁志 102

海興君樞 64
 開市 47, 48, 269, 272, 273
 懷順王 90
 開城 58, 79
 会同館
 6, 31~37, 39~42, 44, 46, 47, 49, 56, 75
 会同四訳館 41, 46
 海難 21
 会寧 6
 海防纂要 165, 167
 嘉義の反乱 100
 臥牛島 235
 霍維華 84
 覚華島 19, 21~23, 28, 81~83
 客死 58, 63, 69
 各司騰録 13, 234
 額真那 121
 嘉慶帝 138, 147~149, 151
 椴島→皮島
 花浦先生朝天航海録 37, 77
 ガルダン 116
 館舎 i, 11, 37, 43, 45
 漢城 58, 59, 121, 132, 133, 139, 142, 195
 官生肄業 i
 関帝像 40
 揀東保 104
 韓徳厚 42
 広東 134, 198, 279
 広東人 99
 広東籍 288
 広東船 126, 127, 130
 官報 284, 287

き

菊花島→覚華島
 崎港商説 126, 127
 貴州 88
 義州 58, 59, 74~76, 142, 257
 義順館 59
 儀注 149
 魏忠賢 83~86, 91
 宜武門 46
 客氏 84

居易録 270
 膠州 279
 恭順王 90
 御河橋 46
 玉河(水) 36, 41
 玉河館
 35~37, 39, 41, 43~47, 49, 56, 75, 78, 82
 玉河橋 35, 37, 42, 43, 46, 49
 玉田県 62, 65, 82
 キリスト教徒 189
 銀 7, 8
 金埧 81, 87~89, 91, 92
 金家口 280
 金景善 41, 45, 48
 金阮堂 9
 金佐明 192
 金始炯 64
 錦州 90, 91, 240
 錦州衛 89
 金州 263
 金州衛 23
 金寿興 191
 金昌業 39
 金城君 120
 金尚憲 84~86
 金地粹 84, 88
 欽定日下旧聞考 34, 35, 38, 40
 欽定平定台湾紀略 104
 錦南先生漂海録 34
 金勉柱 148
 金龍慶 64, 66~69
 金倫瑞 148

く

愚伏先生文集 22, 81
 愚伏先生別集 74

け

京畿道 235, 236, 268
 慶源 6
 蔚山紀程 45
 京師五城坊巷衛集 42
 蔚州 62, 65, 82

景宗実録 120, 121
 景泰帝 54
 鶏頭船 274
 下馬宴 47
 乾魚衛衛 41, 42, 46
 權近 33
 元山 291
 顯宗 189~195
 顯宗改修実録 188, 195, 196, 198, 202
 權帖 85
 阮朝 ii, 10, 114
 權撥 35
 遣明使 35, 36
 乾隆帝(乾隆太上皇)
 11, 104, 107, 108, 138, 143, 147, 151, 152

こ

康昱 76
 洪實 88
 黄海 11, 13, 245
 光海君 255, 258
 光海君日記 20, 76, 247, 248, 256
 黄海南道 185
 高其倬 118
 康熙帝 11, 115, 116, 118, 120, 121, 124
 ~128, 131~134, 147, 261, 262, 264, 267,
 269, 271, 274, 275, 296
 後金 89, 245, 247
 後金軍 26~28, 75, 89, 246, 247, 250, 253,
 257~259
 弘濟院 192, 193
 庚子燕行雜識 40
 杭州 159, 168, 169
 侯恂 25
 皇商 272
 興城 21
 洪処厚 188
 庚津県 168
 江浙 279
 江蘇 286
 孝宗 188
 孝宗実録 35, 159, 160, 186
 高宗実録 101, 109, 149

江蘇海運全案 235
 洪大容 44, 48
 耿仲明 90
 貢道 i, 11
 江南 164, 185
 広南船 131
 広寧 3, 61, 74
 洪武帝 3
 公文 149
 洪命夏 191
 孔有徳 90
 洪翼漢 37, 77, 79, 83, 84, 86, 88, 89
 高麗 73, 76
 後黎朝 ii, 10, 114
 貢路 21, 22, 24, 28, 89, 91
 広祿島 254
 鴻臚寺 148
 国朝耆献類微初編 107, 263
 詰明 3
 護貢官 4
 吳爾泰 121
 御製海運賑濟朝鮮記 274, 275
 胡同 56

さ

齊華門 27
 崔奎瑞 8
 濟州(島)
 34, 164, 169, 185~187, 199, 203, 204
 濟州牧 200, 201
 崔程秀 85
 崔徳中 39, 47
 崔溥 34, 35, 155, 169
 沙窩門 27
 策彦 36
 冊封体制 123
 沙船 236, 239~241
 沙船業 234
 山海関 ii, 3, 19, 58, 62, 74, 75, 89, 250
 三汊 264
 三岔口 263, 265
 山東(省) 20, 22, 85, 164, 185, 259, 261~
 263, 274, 275, 279

◎著者略歴◎

松浦 章 (まつうら・あきら)

1947年生。1976年3月、関西大学大学院博士後期課程（日本史学専攻東洋文化史専修）単位修得退学。1989年3月、関西大学文学博士、2011年9月、関西大学博士（文化交渉学）、現在、関西大学アジア文化研究センター長、関西大学文学部教授。

[主著]

『清代海外貿易史の研究』（朋友書店、2002年）、『江戸時代唐船による日中文化交流』（思文閣出版、2007年）、『東アジア海域の海賊と琉球』（榕樹書林、2008年）、『海外情報からみる東アジア—唐船風説書の世界』（清文堂出版、2009年）、『明清時代東アジア海域の文化交流』（江蘇人民出版社、2009年）、『清代帆船沿海航運史の研究』（関西大学出版部、2010年）、『近世東アジア海域の文化交流』（思文閣出版、2010年）、『清代中国琉球交渉史の研究』（関西大学出版部、2011年）、『清代上海沙船航運業史研究』（江蘇人民出版社、2012年）、『汽船の時代—近代東アジア海域』（清文堂出版、2013年）など。

きんせいちゅうごくちやうせんこうしやう し けんきやう
近世中国朝鮮交渉史の研究

2013(平成25)年10月10日発行

定価：本体6,000円(税別)

著者 松浦 章

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

印刷 株式会社 同朋舎
製本 印刷

© A.Matsuura

ISBN978-4-7842-1709-0 C3022

索引

あ		燕行日録	38, 42
		燕行日記	38, 44, 55
		燕行日記啓本	45
		燕行録	ii, 9, 39, 46, 47, 137, 294
		燕行録全集	ii
		塩商	270
		袁崇煥	20, 21, 24~28, 80, 245, 246
		烟台	281~283, 286, 288
		燕台駅	33
		燕途紀行	38
		お	
		王化貞	247
		黄恭	204
		黄功	204
		黄国材	118
		翁国柱	124
		王在晋	164, 167, 169
		黄仕簡	101
		王士俊	279
		王士禎	270
		汪汝淳	246, 251, 258
		王振	53, 54
		王廷趙	256~258
		王廷有	257, 258
		黄福	33
		鴨緑江	ii, 3, 13, 19, 58, 59, 74, 75, 107, 246, 257, 294
		オランケ	138
		鄂羅斯館	45
		恩赦	119
		温体仁	84
		か	
		海運	262, 263, 265, 273, 274
		懷遠館	74
		海禁	155
		海寇	109
アヘン戦争	234		
厦門志	175		
安州	76, 77		
安相徴	64		
安定門	43		
安南	33		
い			
威海	281~283		
濰県	78		
遺詔	115, 118, 121, 123, 127, 128, 134, 151		
印綬	3		
う			
ウラジオストク	291		
雲南	88, 134		
え			
英祖	65		
英祖実録	64, 65, 249		
英宗	53		
英宗実録	34, 156, 157		
永平府	90		
永楽帝	33		
永曆帝	196		
駅卒	5		
エセン	54		
越鑄	165		
越南	4		
越南漢文燕行文献集成	ii		
燕轅直指	41, 45, 48		
燕王	33		
燕巖集	44		
燕記	48		
燕行記事	44		
燕行使	9		